

大阪府肢体不自由者協会 障がい児通所支援

ぴよんぴよん教室の難聴児療育

I) 療育の基本的な考え方

早期発見・早期療育の重要性

聴覚活用とコミュニケーションの土台づくり

「難聴」であるとわかったら、できるだけ早く療育を開始することが望ましいと考えます。早期に療育を開始することはその後のお子さまの心身の発達やコミュニケーションの力を伸ばしていくために大切です。ぴよんぴよん教室ではお子さまが持っている聴こえの力を補聴器などを活用しながら最大限に引き出し、効果的な聴こえのトレーニングや学びを行っていきます。人とのやりとりで、相手に共感する楽しさを感じ、ことばを育てていくことで、お子さまのコミュニケーションの土台を作っていきます。

ぴよんぴよん教室の療育について

ぴよんぴよん教室では以下の(1)～(5)を特に重視して日々の療育を実施しています。

- (1) 乳幼児の心身の発達を促す
- (2) 聴こえのせかいを広げる ～補聴器の装着指導・聴こえの観察など～
- (3) コミュニケーション能力を高める
～声、ことば、表情、手話、身振り、絵 などいろいろなコミュニケーション手段をつかって、親子でコミュニケーションができるような保護者を支援する～
- (4) 日本語を習得する基礎づくり
- (5) 保護者の心理的な支援や情報提供
(難聴幼児通園施設、聴覚支援学校等教育機関、親の会 等)



集団療育と個別対応療育の必要性

ぴよんぴよん教室では主に **集団療育** と **個別対応療育** を実施しています。

1. 補聴器等を装着しているなかまの存在がある。
2. 遊びの中で友達とやりとりをしたり、楽しい体験を共感することにより、コミュニケーションの能力や社会性を育成する。
3. 自己を肯定し、生きる力を育てる。
4. 個々の乳幼児の聴力や発達に応じた療育をする。
5. 同じ不安や悩みを持つ保護者が安心して話し合える場を提供する。

医療機関・地域の関係機関との連携

- 私たちは、医療機関（病院の耳鼻科・担当医師・担当言語聴覚士等）との連携を大切にしています。定期的な意見交換会を実施し、ぴよんぴよん教室でのお子さまの様子を医療機関にお伝えし、また医学的見地からの意見も伺い、様々な専門職からの視点でお子さまを理解できるように努めています。

大阪府立母子保健総合医療センター 大阪市立総合医療センター 大阪大学医学部
附属病院 近畿大学医学部附属病院 大阪医科大 関西医科大 大阪市立大学医
学部附属病院 等

- また、保健センター（保健所）・こども家庭センター・療育施設・聴覚支援学校
保育所（園）・地域の学校・障がい通所支援施設・相談支援事業所 等と連携し、
適切な療育の提供に心がけています。

II) 療育の専門性

- 難聴と診断されたらできるだけ早く療育を開始する。早期療育が必要だと言われる理由は、私たち（人間）、特に乳幼児期においては主に聴覚情報を得て、活用することで音声言語を獲得するからです。私たちが成長する中で、生活に必要な基本的な言語は乳幼児期に獲得されるという発達的特徴があるためです。
- そのような発達的特徴のため、特に聴こえに課題のある子どもたちに対して早期の療育を提供する社会的基盤や社会的支援がないと、ことばだけでなく、ことばを介して獲得する生活能力および情緒面、社会面などの成長発達に支障が出るのが懸念されます。

難聴乳幼児に対する早期療育の基本的な理念として、次の3点をあげます。

1 障害状況の軽減

補聴器の装用、定着を基礎におき、早期に療育に取り組むことによって、豊富な聴覚環境を用意するとともに、聴覚以外の感覚や諸器官を用いた絵カードや身振り、手話等多様なコミュニケーションを確保し、障害状況の軽減を図ります。あわせて、生活能力全般の向上を図り、日本語教育の基盤作りを行います。

2 家族ぐるみ・地域ぐるみの取り組みへの援助

お子さまが「難聴」と診断されれば、どなたも最初は戸惑い、動揺します。そういった状況にあるご家族に対し、精神的な支えを提供し、地域の専門療育機関（支援者）の一員として、難聴乳幼児自身が健全に育っていく環境や人間関係を整備します。

3 生活の支えとなる自己信頼感の育成

聴こえに課題を抱えるお子さまが成長する中で芽生えてくる「自我」を育てることで、お子さまの心的世界に家族や自分自身に対する信頼感・自己肯定感を確立させ、これからの人生の中で生じてくる様々な課題について、回避することなく自ら取り組んでいける心（心的準備性（レディネス））を育成します。

Ⅲ) 療育についてのぴよんぴよん教室の思い

ぴよんぴよん教室では一人ひとりのお子さまの聴こえの状態を把握し、補聴器（人工内耳）の安定装用・定着をもとに、早期の療育の開始と通所の継続を保護者と協力しながら実施しています。

音声・絵・言葉・手話・身振りなどさまざまなコミュニケーション手段を複合的に活用することが特に乳幼児期には大切です。「口話」、「手話」などとコミュニケーションの方法を限定するのではなく、コミュニケーションにはさまざまな手段があると幅広くとらえることで、「伝えたい」、「知りたい」、「相手とやりとりしたい」という子どもたちが本来持っている気持ちを自由に表現してもらい、その気持ちを育てていきたいと思っています。

学童期に入ったお子さまには、人と人はいろんな手段を使って気持ちを通い合わせることができるという小さいことからの体験を通じて、さまざまなコミュニケーション手段をもつ友達や周囲の人と分け隔てなく付き合っていける人になってほしいと願っています。そういった経験をする中で、成長とともにお子さま自身が「音声言語」、「手話」、「文字」…といった自分にあったコミュニケーション手段を選んだり、どの手段をも活用するトータルなコミュニケーションの力をつけてもらいたいと思っています。

乳幼児期のお子さまにとっては保護者（お母さん）との関わりは言語を育てる基礎になります。家庭・子育て・仕事と忙しい日常の中で、日常のいろんなことをやりくりしながらお子さまと楽しくかかわる時間はたとえ少しの時間でも保護者にとっても何ものにも代えがたい経験になるでしょう。気持ちが前向きにならないときも、子育てに時間が十分とれなくて後ろめたい気持ちになるときも、**ぴよんぴよん教室は保護者と共に難聴のお子さまのことを考える場所です。**お子さまのみならず、保護者にとっても、われわれ支援者にとっても常に成長できる場所でありたいと思っています。